

令和5年度の活動報告と 令和6年度活動計画

令和5年度総会の開催…4/22
定例会の開催…7/11、10/17、1/24、3/21
常任委員会の開催…10/4、2/27

親睦・イベント委員会

<令和5年度活動報告>

- 納涼会(オリエンタルホテル神戸)8/4
- 秋の親睦イベント
(GIORONE神戸三宮)11/24
- 新春賀詞交歓会／運営補助(itsu葉)
1/24

<令和6年度活動計画>

- 美術鑑賞 5～6月実施予定
- 納涼会 8月30日実施予定
- スポーツ観戦 10月以降実施予定
- 新春賀詞交歓会(運営補助)
2025年1月予定

防災・防犯委員会

<令和5年度活動報告>

- 地区防災計画の改訂検討
- 防災福祉コミュニティ代表者会議参加
4/23
- 防災マネジメント研修中級コース参加
11/5
- 市民防災リーダー研修会参加 10/15
- 旧居留地防災訓練
(朝日ビル1Fピロティ)神戸朝日ビルと
合同実施 50名参加 11/28
- メモリアルウォーク(帰宅困難者訓練)
10名参加 1/17
- 会員企業への防災資機材の貸出実施



旧居留地防災訓練

<令和6年度活動計画>

- 地区防災計画の改訂検討
- 防災福祉コミュニティ代表者会議参加
- 市民防災リーダー研修への参加

- 市民救命士講習会の開催 4/5
- 旧居留地防災訓練の実施 10月予定
- 防犯講習会の実施 6～7月予定
- 神戸市帰宅困難訓練への参加
1月頃予定
- 会員企業への防災資機材の貸出実施

広報委員会

<令和5年度活動報告>

- 広報誌「居留地会議 No.44号」発行
- 親睦会・イベント等の写真撮影・記録
- 旧居留地オフィシャルサイト、会員向け
サイトの管理・運営
- 旧居留地連絡協議会
案内リーフレット作成
- 情報発信事業／はいからプロジェクト
- 武庫川女子大学インターシップ協力
- 旧居留地フォトコンテスト 8/1～9/30
- 旧居留地ブロムナードコンサート
「ジャズ喫茶ブロムナード」10/28
- 「こころのアート展 in 居留地」への協力
12/8～21



ブロムナードコンサート

<令和6年度活動計画>

- 広報誌「居留地会議」No45発行
- イベント等の写真撮影・記録
- 旧居留地連絡協議会WEBサイト
(会員向サイト)の管理・運営
- 旧居留地オフィシャルサイト、会員向け
サイトの管理・運営
- 情報発信事業／はいからプロジェクト
- 毎月第3木曜日に開催
- 武庫川女子大インターンシップ受入協力
- 旧居留地ブロムナードコンサート

都心(まち)づくり委員会

<令和5年度活動報告>

- 旧居留地内のまちづくりにおける、地区
内建設計画・店舗計画の聴取、助言
- 広告物対策
- 迷惑自転車対策
- 道路の整備の考え方
- 広告物ガイドライン改定の検討

<令和6年度活動計画>

- 旧居留地内のまちづくりにおける、地区
内建設計画・店舗計画の聴取、助言
- 広告物対策
- 迷惑自転車対策
- 道路の整備の考え方
- 広告物ガイドライン改定の検討

環境委員会

<令和5年度活動報告>

- プランター維持管理契約更新 6/1
- 初夏クリーン作戦 6/8
- 秋季クリーン作戦 10/19
- 春季クリーン作戦 3/7
- 「飾花維持管理」採用会員増加働きかけ
実施



初夏クリーン作戦

<令和6年度活動計画>

- プランター維持管理契約更新 6/1
- 初夏クリーン作戦実施 6/13
- 秋季クリーン作戦実施予定 10/17
- 春季クリーン作戦実施予定 3/6
- 放置自転車・バイク警告タグ貼り予定
11/14
- 「飾花維持管理」採用会員増加働きかけ



居留地会議

THE FORMER FOREIGN SETTLEMENT OF KOBE

旧居留地の 阪神・淡路大震災30年

来年の1月17日は、阪神・淡路大震災から30年となります。節目の年を迎えるに当たり、神戸市などでは防災や減災をテーマにしたシンポジウムや国際会議が開かれるなど「あの日」の経験と教訓を再認識し、次代に伝える動きが広がってきました。震災後、いち早く地域主導の「復興計画」や「地域防災計画」を策定した旧居留地連絡協議会でも、非常時の相互支援策を問い直し、不測の事態に備えようとの声が上がっています。会員相互の結束で甚大な震災被害を乗り越え、近代洋風建築群や風格のある街並みを現代に生かしながら、神戸の中核業務地として再生した旧居留地。あらためて「あの日」からの足跡を振り返るとともに、街の「今」を探りました。

復興への足跡

震災を経験した旧居留地連絡協議会の会員には、街の復興を振り返るとき、忘れられない一つの風景があります。1995年2月6日、寒風が吹き抜ける旧居留地の立体駐車場の一角に、パイプ椅子を並べただけの仮設会議場が設けられました。街にはガレキが山積み、復旧作業が始まったばかりのころ

でした。連絡協議会の臨時総会が開かれたのです。出席した全員が防寒着姿。表情も厳しく、旧居留地の今後を話し合う中、誰言うことなく声が上がったといいます。

「歴史ある旧居留地をこのままにはしておけない」「みんなの力を合わせて復興させようじゃないか」。地域への愛着と誇りを胸に、連絡協議会の会員らが街の復興にベクトルを合わせた瞬間でした。

新会員募集

入会のお問い合わせ、お申し込みは、
078-333-2314 大丸神戸店(事務局／野島・松尾)まで
078-333-4111 ノザワ(事務局／古賀)まで
(都合により不在場合があります)

旧居留地連絡協議会

神戸市中央区播磨町30 大丸カーポート7階
kobe@kyoryuchi-club.com



旧居留地では106棟あった建物のうち近代洋風建築物を含む22棟が解体を要する深刻な被害(全壊14、半壊3、中間階破壊5)を受けました。22棟の中には、明治初期の居留地時代に建築され、往時の姿を唯一とどめていた「十五番館」(国指定重要文化財、1998年復元)をはじめ、明治から大正、昭和初期にかけての歴史的建築物9棟が含まれていました。「旧居留地の情緒そのものが損なわれてしまうかも知れない」という重大な事態に直面していたのです。

臨時総会で旧居留地再生の合意が会員間でなされたことで、復興のスピードは加速していきます。2月には「復興委員会」が設立され、その年の10月には行動指針を示した「神戸旧居留地／復興計画」を策定します。同計画では「まちの復興に旧居留地の蓄積を活かす」をコンセプトに①安全で高規格な都心づくり②交通の流れを整えた歩きたくなる街づくり③近代建築物を活かした風格ある街並みづくり④旧



再建された十五番館



震災直後の十五番館



十五番館地下に設置されている免震装置

居留地にふさわしい建設活動の促進―4つの方針を掲げました。

さらに、1997年3月、ビルの新築や改築時に、復興計画に示した4つの方針を具体化するための実例を提案する「都心(まち)づくりガイドライン」を策定します。この冊子では、建物の壁面線やビルのスカイライン(建物と青空を区切る稜線)をそろえる▽建物内部にポルティコ(街廊)やアトリウム(建築内広場)、パティオ(中庭空間)などを設け、市民が憩える公開空地や広場空間を確保する―など、実用性を兼ね備えた居留地建築の伝統美や風格を今に生かすよう推奨。さらに、街のにぎわいづくりのため、建物の低層部にレストランやブランドショップなどを誘致するよう呼びかけました。この試みは、復興の過程で新規の大型建築物を中心に多用され、従来の業務地に商業、集客的要素の色合いを強めた現在の旧居留地の方向性を示す結果となりました。

歴史的建築群を守るパワー

旧居留地の街並み保全への深い造詣は、震災前の1983年、旧居留地が神戸市都市景観条例に基づく都市景観形成地域に指定され、同連絡協議会が「景観形成市民団体」に認定されたことが端緒となっています。1994年10月には「歴史の流れを未来に引き継ぐ」をスローガンに「神戸旧居留地・景観形成計画」を発表。そのわずか3カ月後に震災が発生し、同計画の骨子は、復興計画や都心づくりガイドラインに引き継がれる形で具体化されていくことになりました。



復興計画と都心づくりガイドライン

被災したビルの大半は震災か

ら10年を経ずに再建を完了。旧居留地の復興に貢献したいという企業努力で完全修復された十五番館ほか、大正から昭和初期にかけて建てられた近代洋風建築も往時の姿を残す形で8棟が再建・修復されました。

「大正から昭和初期にかけての近代洋風建築がこれほどまで集積し、地域の人たちが連携して建物や街並み、景観の保存に取り組んでいるところは国内を探しても他にありません」

都市防災や建築保存の第一人者で、阪神・淡路復興委員会委員を務めた伊藤滋・東京大学名誉教授は、旧居留地を視察で訪れ、同行した神戸市関係者にそんな称賛の言葉を残しています。



災害に備えて

「将来の災害にどう対応するか」。復興の途上、連絡協議会で課題として持ち上がったのが、震災の教訓に学び、日常の備えを怠らずに点検や訓練を積み重ねていく自主防災力の強化です。これを受け、2001年1月に「神戸旧居留地・地域防災計画」を発表します。22ヘクタールの旧居留地には当時で1,000を超える事業所が集積し、就業者数は約25,000人。さらに買い物や観光、ビジネスなどで一日に約10,000人の来訪者があると試算し、同計画では①会員事業所



神戸旧居留地・地域防災計画



いまを見つめ、あしたへ

「あの日」から30年を経て、旧居留地はどう変わりつつあるのでしょうか。地域問題研究所では、総務省統計局の経済センサスや国勢調査などから旧居留地関連のデータを抜き出し、震災前後の指標比較を試みています。

そのレポートによると、建物の床面積は震災前の1990(平成2)年を100とした場合、2020(令和2)年で142.8。用途別では、震災前後とも事務所・銀行が全体の約7割を占めていますが、用途別の伸び率を見ると、事務所・銀行が1990年比123.7であるのに対し、店舗・百貨店が170.0、ホテル・劇場が240.2と大幅な伸びで、旧居留地が集客エリアとしての色合いを強めていることが分かります。

住宅の床面積は分譲マンションの建設などで1990年比264.3と急伸び、実数では558世帯、1042人と6倍近くになって



JR三ノ宮新駅ビル(2029年度の開業予定)

間の相互支援②来訪者支援③普段の備え―の3項目を設けて、会員が対処すべき行動指針を記しました。

特に、来訪者への支援措置を明記したことが特徴です。計4カ所の救護コーナーを設置するほか、帰宅困難者に対しては、一時待避所の設営やトイレの提供などを会員間で申し合わせました。

旧居留地連絡協議会の顧問で同計画の策定・改訂作業に携わった地域問題研究所代表の山本俊貞さんは「事業所や運営主体の変更などで、会員間の防災意識に温度差が生じることもある。相互支援や来訪者への支援策が今の実情に見合っているかどうかを含め、常に内容を検証する努力を続けてほしい」と話しています。

います。ちなみに、旧居留地内の事業所数は1555件、総従業者数は29,047人(2021年、経済センサス)。2025年春以降、神戸銀行協会ビル跡地に「神戸旧居留地91番館」、三共生興スカイビル跡地に「WDB三宮ビル」(仮称)の2棟が完成するほか、日本真珠会館跡地ではオフィス、住宅などを備えた複合ビルが着工し、事業所、従業員数の増勢基調は当面続きそうです。

旧居留地を取り巻く都市構造も2025年以降、大きく変化しようとしています。来年4月、新港第2突堤に、神戸市が民間に進めるウォーターフロント開発の一環として、約1万人収容の多目的施設「ジーライオンアリーナ神戸」(地上7階)が開業します。プロバスケットボール男子Bリーグ2部の「神戸ストークス」の本拠地となるほか、音楽ライブイベントや国際会議なども誘致。その南側には緑地広場やカフェなどの集客施設も整備し、運営会社は「周辺一帯で年間300万人の集客を目指す」と発表しています。

アリーナから北へ徒歩20分圏内のJR三ノ宮駅前では商業施設やホテル、オフィスを備えた地上30階のJR新駅ビル(2029年度開業予定)の建設が始まり、その東側近接地では、西日本最大級のバスターミナルを核とした地上32階の再開発ビル(2027年12月完成予定)も着工。旧居留地は南と北に誕生する新しい集客ゾーンの結節点に位置し、神戸市街地の回遊性を高める重要なエリアとして各方面から注目を集めています。

旧居留地の震災30年は、復興の足跡を振り返り、安全で安心な街づくりへの思いを新たにする一方で、未来に向けて街のあり方を考える重要な年となりそうです。